

[た よ り]

福岡県透析医会だより

中嶋文行

1 はじめに

福岡県透析医会（福透医）発足の詳細な経緯につきましては、前回の支部だより（隈博政前会長著）に記載されていますので簡略に記させていただきます。

1977年1月に本会の前身となる福岡県血液透析施設協議会が設立されました。福岡県血液透析施設協議会は、1982年より、県医師会の専門医会として認められていただくように数代の会長が繰り返して県医師会に働きかけを行い、1995年1月に、施設単位入会の「福岡県血液透析施設協議会」を個人単位入会の「福岡県透析医会」に移行させ、同年7月に念願の福岡県医師会の専門医会入会を果たすことができました。

行政との窓口であります県医師会の専門医会の一員となることができましたのは、災害時対策をはじめとして福透医の活動にとりまして大変ありがたいことでした。

2 会の活動

本会は県医師会に属する専門医会では有りますが、透析施設の透析医療の向上と透析施設運営の円滑化、および施設間の融和を図るという福岡県血液透析施設協議会の設立の役割も担っている、と考えています。このために、会員個人のための活動はもちろんでありますが、各透析施設のレベルアップを目的とした活動も行っています。

本会の活動のメインテーマとしまして医療事故防止、院内感染防止、災害時透析医療対策や安全管理および

診療報酬問題を取り上げていまして、定期的に講演会の開催を行っています。なかでも感染症対策学術講演会ならびに安全管理セミナーは、スタッフ参加の講演会として多数のスタッフに参加していただいています。さらに、会員のみを対象としたクローズドの学術講演会を開催していますが、その中で必ず一般演題として診療報酬関連の情報を発表する機会を設けています。

災害時透析医療対策には以前より取り組んでいまして、FAX連絡網の整備、災害時優先電話、災害時優先携帯電話の登録、緊急時通行車両の登録などを行っていましたが、これらの多くは県医師会の専門医会で有ったために可能なことでした。

2005年3月に福岡県西方沖地震を経験し、災害時優先電話や災害時優先携帯電話は大変有用でしたが、災害時に一斉に通報できる連絡体制整備の重要性を認識し、新たな連絡網の検討を行いました。このことより、会員同士の災害時緊急連絡網として2005年12月より「お知らせメール」の利用を開始しました。これは「NTTドコモ中国」が提供する『おむかえ君（車両運行通知サービス）』を用いたもので、あらかじめ登録された携帯電話やパソコンへメール配信を行うことができます。サーバーが広島県に有りますので、福岡県下での災害時にも連絡体制の確保に有効と考えています。

さらに透析患者さんへの連絡網としまして、福岡県庁が運用しています県民を対象にした「防災メールまもる君」のシステムを利用できるように県庁と交渉し、2006年12月より利用が可能となり、「透析メールま

もるくん」として運用を開始しています。透析施設の被災情報、代替透析施設の紹介や被災施設の復旧情報などを、あらかじめ登録した透析患者さん、あるいは患者家族へ直接メール配信をすることができますし、さらには報道機関への同報も可能となっています。この件も県医師会が窓口となっただき県庁担当部署との交渉ができたためであり、さらに患者団体の福岡県腎臓病患者連絡協議会（福腎協）との連携により可能となりました。

透析施設での災害対策の一つとして水の確保は大変重要な事ですが、水道事業は各市町村単位で行われていますので、福透医としましては、各透析施設が属する行政組織と話し合いを行い、水確保の重要性を行政に理解していただくことを推奨しています。これらの活動には担当理事の役割はもちろんですが「災害対策委員会」の委員各位にご協力を頂いています。

感染症対策の恒例の行事としまして感染症対策学術講演会を開催していますが、パンデミックインフルエンザ対策が差し迫っています本年度は早々に講演会を開催し、特別講演の演題として取り上げました。また、透析患者や透析施設の対応につきましては、県衛生部や県医師会とも会合を行うとともに連携を図っています。

そのほかに、例年4月末を目安に福腎協（前述）役員と福透医理事メンバーとの協議会を開催し、診療報酬改定の内容説明から患者さんの通院送迎などの移送、介護の問題など幅広く意見交換を行っています。県医師会からの様々なアンケートの依頼、会合への参加要請などに対しても、県医師会の専門医会の一員として積極的に参加、協力を行ってまいり、2009年1月に県医師会主催で開催されます第1回福岡県医学会総会への演題提出も決まっています。

腎移植推進の重要性は十分に理解していますが、現在の取り組みとしましては献腎移植登録の補助予算を毎年組んでいることと、例年10月に開催されます臓器移植普及街頭キャンペーンへの参加を行っているのみで、今後はより一層の内容の充実が必要と思われます。診療報酬改定に伴う県医師会や日本透析医会へのアンケートの協力も重要な役割ですが、診療報酬のマイナス改定に歯止めがかからないのは誠に残念です。

以上のような様々な活動を理事と監査や顧問など19名の役員で理事会を運営していますが、その活動内容が会員の目にみえるように理事会ニュースレターを毎理事会後に会員へ送付し、情報公開に努めています。

3 最後に

現在の会員数は148名で、透析施設の数としましては126施設となっています。県下の透析施設の数には正確に把握できていませんが50施設弱の透析医が未加入と思われます。災害時の透析患者さんへの対応を考えましても全施設の透析医の入会が望ましいのですが、医師会会員への入会者も減少する中で大変な事ですので今後とも繰り返し勧誘を続けて行きます。未加入の理由としましては、本会が県医師会の専門医会で有ることによる県医師会への入会の有無と共に会費の問題も有ると思われますが、会員総数が限られていて予算執行上は大変悩ましい点であります。

様々な問題点、疑問点を抱えていますが、日本透析医会、福岡県医師会との連携を密にして会員のため、透析患者さんのために福岡県透析医会をより発展させたいと思っています。